

Hondaの交通安全情報紙



Since 1971



Safety for Everyone

Hondaはすべての人の交通安全を願い活動しています。

●編集室：本田技研工業株式会社 安全運転普及本部内 〒107-8556 東京都港区南青山2-1-1 TEL 03(5412)1736 http://www.honda.co.jp/safetyinfo/

●編集人：吉田宏樹

※年間購読をご希望の方は、下記までお問合わせください。(株)アストクリエイティブ 安全運転普及本部係 TEL 03(5439)1191 E-mail:sj-mail@spirit.honda.co.jp



SJホームページは

CONTENTS

- 特集：小学生・中学生・高校生への自転車教育 学校と地域による教育の継続が児童・生徒の安全意識を高める……①
TOPICS①/山梨県立甲府昭和高等学校……④
TOPICS②/白バイ合同訓練会……④
TOPICS③/親子交通安全教室……④
現場訪問/総合警備保障(株)(ALSOK)……⑤
NEWS REVIEW①/(一社)日本自動車工業会……⑤
NEWS REVIEW②/第47回二輪車安全運転全国大会……⑤
STREAM/全国に広がるHondaの高校生交通安全教育活動 第7回……⑥
危険予測トレーニング(KYT)/歩行者を追い越そうとしている時(自転車編)……⑦
指導者ファイル/東京都八王子市の交通安全教育指導員の皆さん……⑦
SJクイズ……⑦
SAFETY FOCUS/福岡県北九州市……⑧

特集：小学生・中学生・高校生への自転車教育
学校と地域による教育の継続が児童・生徒の安全意識を高める



自転車事故は全交通事故件数の約2割を占めている(平成25年)。また、自転車乗用中の交通事故死傷者を年齢層別にみると、15歳以下の子どもと16~19歳の若者で3割以上となっている。自転車事故を低減するためには、こうした年齢層への交通安全教育の充実が必要である。今回は、学校と地域による小学生・中学生・高校生への自転車教育の事例を紹介する。



鈴鹿市立明生小学校での「あやとりい、自転車教室」。Hondaを定年退職した有志で構成される「あやとりい同好会」が中心となって児童を指導

ホンダが三重県鈴鹿市と協力して開発した交通安全教育プログラム「あやとりい」には、幼児から小学校高学年までの自転車教育に対応した「あやとりい、自



スタート地点では必ず右後方を確認して発進

2時限目が始まる午前9時40分に3・4年生が校庭に集合。まず、同好会の山田さんが「これから皆さんに自転車で校庭に設けたコースを走ってもらいます。その時に2つのことを意識して練習してください。1つ目は、止まる時は必ず左足を着地させること。クルマは右後方から近づいてきます。右足で着地するとクルマが来る側に転倒する危険がある



停止する時は両手でブレーキをかけ、左足で着地

児童たちは自分のヘルメットをかぶり、自転車を押してスタート地点に並び、スタート地点を担当する同好会の坂さんが「自転車に乗車する時は左側から乗ってください。その時は両手でブレーキレバーをしっかり握り、右後方を観てからサドルにまたがりましょう。左足を地面につけて、右足でペダルをこぎ出して発進できるように構えます」と、一人ひとりの乗車の手順をチェックしていく。児童は発進する前にも右後方を確認してスタート。直線コースの先にある白線の手前で、ブレーキをかけて止まる。ここでは、両手でしっかりブレーキをかけ、左

学校と地域が一体となった小学生への指導

7月8日、鈴鹿市立明生小学校で小学3~6年生の児童約190名を対象に、自転車教室が行われた。指導にあたるのは鈴鹿市生活安全部地域課副参事の川上博樹さん、同市交通安全教育指導員の森友里さん、有竹幸子さん、Hondaを定年退職した有志で構成される「あやとりい同好会(以下、同好会)」の坂川一さん、山田晴一さん、川田吉昭さん、水谷政雄さん、小森邦雄さん、本田技研工業(株)安全運転普及本部鈴鹿普及ブロックのインストラクターである。



常に走行スペースの左側端を走ることを意識してもらう

※1 あやとりい=Hondaが三重県鈴鹿市と協力して開発した交通安全教育プログラム。幼児~小学校低学年対象の「あやとりい ひよこ編」、小学3~4年生対象の「あやとりい」、幼児~小学校高学年対象の「あやとりい 自転車教室」、高齢の歩行者・自転車利用者対象の「あやとりい 長寿編」がある。あやとりいは「あんぜんを やさしく とときあかし りかいして いただく」の略。詳細は以下ホームページを参照。http://www.honda.co.jp/safetyinfo/kyt/ayatorii/



見通しの悪い交差点では停止線の手前で停止後、左右が見通せる位置まで自転車を進め、自転車のブレーキを両手でしっかりとぎって身を乗り出すようにして左右を確認するという動作を身につけてもらう



### 児童の気づきを促す 適切な指導を行う

足で着地するように同好会のメンバーが児童に声をかける。次に、見通しの悪い交差点に向かう。先ほどと同じように停止線を示す白線の手前で停止。その後、左右が見通せる位置まで自転車を進め、左右と右後方の安全を確認して交差点を通過する。自転車の前輪をあまり出さずに、身を乗り出すようにして確認するように同好会のメンバーや交通教育指導員がアドバイス。そして、顔を左右に向けるだけでなく、しっかりと交差する道路の先にあるものを観るよう

明生小学校の浅野瑞代校長は「当校では、私が赴任する前の昨年まで実技による自転車教育は一時中断していたようです。以前勤務していた小学校では毎年実施していましたし、当校の周辺はクルマの往来も多い



駐車車両がいる時は一時停止して、前方や後方からクルマが来ていないことを確認してからその脇を通過する (5・6年生のみ)

ので、今年から再開することにしました。ブレーキのかけ方や安全確認の仕方が不十分であることに児童が気づき、適切なアドバイスを受けられたので、児童にとって役立つ内容だったと思います。自転車教室を児童の安全意識を高めるための重要な行事と位置づけ、来年以降も継続していく予定です。また、今後は校外の道路を自転車

### 小学生時代と同じ気持ちで乗らない よう意識を変える

走りながら指導することも検討したいと考えています」と話す。こうした鈴鹿市内の小中学校での実技教育において、同好会が果たす役割は大きい。同好会は平成16年に発足して以来、メンバーがボランティア指導員として活動を継続。現在は33名が所属し、4グループに分かれて、交通安全教室等の運営をサポートしている。10年前の発足時から同好会で活動している川田さんは「地域や社会と関わりを持ち続けられることが私たちの喜びです。自転車教室では、子どもたちにできるだけ多く練習してもらえようという心にかけています。繰り返し練習することで、確実に上手なうまくなっていきます。上手くなったら、ほめてあげる。これでさらに伸びます。これを地道に続けることで私たち指導する側も成長し、今年よりも来年、来年よりも再来年と教育の質も成熟されていくと思います」という。

小学校を卒業し、中学生になると自転車を通学手段として利用するケースが増える。奈良県にある大和郡山南市立郡山南中学校では全校生徒565名中228名が自転車で通学している。同校の藤村保夫校長は「小学生までは、自転車に乗ることは遊びの延長ととらえがちだったと思います。中学生には車両の運転者としての自覚を促し、遊び気分であらぬように意識を変え



大和郡山南市立郡山南中学校での交通安全教室。中学1年生の自転車通学者は見通しの悪い交差点の通過や、ピンをジグザグに走るスラロームといった実技の課題に取り組む

ることが大切です」と話す。同校は毎年4月または5月に1年生を対象とした交通安全教室を開催している。その中で、自転車通学者に対しては実技による指導を行っている(自転車通学者以外は座学となる)。指導は大和郡山南市の交通指導員の横田栄子さん、山本順子さん、稲光裕子さんが担当している。大和郡山南市では、小・中学校ともに体育館の中に自転車で行くコースを設営して実技を中心とした指導を行っている。郡山南中学校では、信号交差点や見通しの悪い交差点(一時停止場所)の通過、ピンの間をジグザグに走るスラロームや狭い通路の走行などの課題を盛り込んだコースを生徒が走行。「スラロームや狭い通路の走行では、低速になるとバランスを崩しやすくなり、自分が思っているほど自転車を上手に操作できないことを生徒自身に感じてもらうことがねらいです」と稲光さんは説明する。

横田さんは「基本的な内容は小学生と変えていません。ただし、交通ルールの面では、小学生は自転車歩道を走ることができませんが、中学生になると歩道を走れるのは通行要件を満たした場合に限られます。ですから、自転車は車道の左側端を通行することが原則であることを理解してもらおう」が重要だと考えています。また、交通事故の被害者ではなく、加害者になってしまう場合があることも伝えていきます」という。山本さんは様々な中学校の生徒が実技に取り組む姿を見て、近年は両手でブレーキを操作できない中学生が増えていると危惧する。「前ブレーキだけで止まろうとする生徒や飛び降りることで止まる生徒もいます。これは初めて自転車に乗り始める時に正しいブレーキ操作を教えてもらっていないことが原因の1つではないかと考えています。安全に止まれないということは事故防止の上で重要なことで、コースを走り終えた先にあるゴール地点で、両手で前後のブレーキをかけて目標となる線の手前でピタリ止まるという基礎的な課題も加えました」。

### 交通ルールの遵守と マナーアップをめざす

郡山南中学校では交通安全教室の開催だけでなく、生徒指導主事の三谷晴彦教諭が中心となって、自転車通学者のマナーアップに取り組んでいる。「登下校の時間帯は歩行者も多いので、そうした方々の迷惑にならないようにしたいと考えています。登校時と下校時で左側通行を徹底するため、

※2 自転車の歩道通行要件には次の3つの場合がある。「普通自転車歩道通行可の標識等がある場合」「13歳未満の子どもや70歳以上の高齢者等である場合」「車道又は交通の状況に照らして自転車の通行の安全を確保するためやむを得ない場合」。

# 特集：小学生・中学生・高校生への自転車教育



一列に並んだ生徒の真横を生徒インストラクターが乗る自転車が走り抜ける

## 生徒から生徒への交通安全教育を実現

徳島県立三好高等学校はホンダが全国で展開している高校生交通安全教育（6面参照）を取り入れた高校の1つである。昨年

自転車が行き止まりの場所を定めています。また、交差点で信号待ちをする時も歩行者の妨げにならないような待ち方も決めています。私たちが通学路に立ち、繰り返し声をかけました。以前は、生徒のマナーに対する地域の方々の苦情が多かったのですが、現在ではほとんどなくなりました」と三谷教諭は話す。この他、かばんなどを前のカゴに入れていたりフラついて転倒しやすくなるため、1年生などまだ身体が小さい生徒には荷物を後ろの荷台にくくりつけるように指導している。このようなきめ細かい指導の積み重ねも、交通事故防止につながるといえるだろう。

「交通安全教育は社会のルールを知ったり、地域の一員としてどのように行動すれば人に迷惑をかけないかを考える良い機会です。だからこそ、日々の学校生活の中で繰り返し指導していく必要があります」と、三谷教諭は交通安全教育の意義を語った。

本田技研工業（株）安全運転普及本部浜松普及ブロックが三好警察署、三好地区交通安全教育推進協議会と連携して、同校で自転車教育を実施。同校の安永校長は「ホンダの交通安全教育は思いやりや譲り合いといった人と人とのコミュニケーションの重要性を生徒に理解させることができる点が良いと感じました」と評価する。同校は2年目を迎えるにあたり、ホンダの高校生交通安全教育を学校と生徒が主体となった自主的活動として継続できるように、生徒インストラクターを養成。「全校生徒の安全意識を向上させることが目標ですが、現実的にはなかなか難しい。そこで、指導的な役割を担う生徒を育て、その生徒から周囲に拡げてもらおうと考えました。意識を高めるには、人に教えるという立場を経験させることが効果的だと思います。そして、生徒インストラクターを募ったところ、12名の生徒が手を上げてくれたのです」と、安永校長はこの取組みの背景を語る。生徒12名は春休みに浜松普及ブロックによる研修を受講し、生徒インストラクターとなった。そして6月25日、生徒インストラクターによる自転車安全運転講習会が行われた。開講にあたって、安永校長は受講する全校生徒約150名に対して「今日、指導を担う当してくれるのは皆さんの仲間です。皆さんが思いやりを持った行動ができるように、自転車教育のノウハウを勉強し、準備してください。皆さん自身が交通事故の被害者、加害者にならないために、仲間から多くのことを学んでほしい」と挨拶。この日は、地元

## 自分たちの思いを後輩にも受け継いでほしい

体育館に移動し、実施されたのは「思いやり運転」。このプログラムのテーマは、相手の立場に立つて考えることである。生徒インストラクターが10名ずつ生徒を指名し、一列に並んでもらう。その真横を生徒インストラクターが乗る自転車がスピードを出して、前と後ろから走り抜ける。自転車通行可の歩道などで歩行者の横を通る時に、スピードを出していると歩行者はどのように感じるかを実感してもらおうと狙っていた。

次は7名ずつ生徒を指名し、6名の生徒に指定したスペースを思い思いに歩いてもらう。ある生徒は本を読み、ある生徒は傘をさし、ある生徒は台車を押しているなど、歩行者が多い歩道の状況を再現するためだ。残る1名の生徒には自転車に乗って6名の後方から間を縫うように走るよう、生徒インストラクターが指示。それが終わると、生徒インストラクターは体験した生徒にマイクを向けて感想を尋ねていく。歩行者役の生徒からは「突然、自転車が真横に現れてビックリした」「視線を本に向けていたので、後ろから来る自転車の気配を感じなかった」という声がかかった。

また、自転車利用者役の生徒たちの「歩いている人に自転車が当たりそうで、上手く走れなかった」という感想に対しては「こういう場面で、自転車はどうするべきですか?」と質問。「スピードを出さない」「止まって歩行者をやり過ぎず」「自転車を



歩行者が多い歩道の状況を再現し、歩行者の間を自転車ですり抜けてもらい、生徒インストラクターが歩行者役と自転車利用者役の生徒のそれぞれに聞く

押して歩く」と生徒たちは答えた。

最後に、浜松普及ブロックのインストラクターが「歩行者のいる場所を走る時はスピードを控えるなど十分に注意してください。『相手を傷つけない』という気持ちがあれば、危ないことや無理なことはやらないはずですよ」と締めくくり、自転車安全運転講習会は終了した。

生徒インストラクターの一人、駒倉健吾さん（2年生）は「インストラクターの募集が始まる前、自転車に乗っていてヒヤリとしたことがありました。事故にはいたりませんでしたが、自分自身もと交通安全全について学んでおく必要があると感じ、志願しました」と振り返る。「指導者という立場になるので、インストラクター研修で学んだ安全運転を日々実践して、習慣として身につけられるように努力してきました。今日は天候の急変で予定したことができませんでした。みんなが私たちの指示に従って動いてくれたり、話に耳を傾けてくれたので、とてもうれしく思います。私たちの思いを後輩にも受け継いで、この取組みを続けてもらいたい」と、駒倉さんは充実した表情を浮かべた。

Hondaの「高校生交通安全教育」を活用したいという自治体、警察、団体の方は最寄りの地区普及ブロックにご相談ください。

- 栃木普及ブロック（栃木県真岡市）  
TEL：0285-84-7114
- 埼玉普及ブロック（埼玉県狭山市）  
TEL：04-2955-5323
- 浜松普及ブロック（静岡県浜松市）  
TEL：053-439-2316
- 鈴鹿普及ブロック（三重県鈴鹿市）  
TEL：059-370-1553
- 熊本普及ブロック（熊本県大津町）  
TEL：096-293-3206

また「あやとりい 自転車教室（子ども自転車トレーニングマニュアル）」については、鈴鹿普及ブロック（TEL：059-370-1553）へお問い合わせください。



三好警察署の警察官、三好地区交通安全教育推進協議会の交通安全教育指導員が生徒インストラクターをサポート